

第5学年 算数科学習モデル指導案

1. 単元名 「合同な図形」

2. 本時について

(1) 本時の目標

○合同な形のよさは社会の中で多く利用されていることを知り、学びが社会と繋がっている実感を持つ。

(2) 本時の展開

分	教師の支援	学習活動
3	○ワークシートを配付し、身近にある合同な形に気付かせる。	T：身の回りにある合同な形を探してみましょう。
	☆ワークシート「身の回りの合同な形から考えてみよう！」を配付し、身の回りのいろいろな合同な形の活用に気付く。	
7	○ほかにも、合同な形を活用したものがあるか、意見交換する。 ○出された気付きや意見をもとに、合同な形のよさを活用していることをとらえる。	C：たとえば、懐中電灯だって、同じ形の乾電池でないと入らないものね。 C：この間ラジカセの電池を入れ替えたけど、メーカーは違っても単1とか単2とサイズが同じならつかえたよ。 T：コンセントの形はどう？ C：すごい！二つの口の向かって左が少し長くできている。県が違っても同じなんだ。 C：差し込むプラグも合同だね。 C：お金やCDも同じでないと便利に使えないものね。
3	○職業シートの解説をして、消火栓の形が合同に規格化されていることの意味と価値を伝える。	T：みんなの命を守るためにも役立っているよ。 C：僕の家の前にも消火栓があるよ。合同が役に立っているんだね。
	キャリアの宝につながる解説（児童が納得できるような解説）をする。	
2	<p>合同な形は、身近なところでもいろいろ見つけることができます。それらは、みんな合同な形のよさを活用して、みんなが便利に生活できる（いつでも、どこでも使える）ように工夫されています。</p> <p>算数で学んだ合同の形のことを社会と繋がり、生かされています。</p>	